

新型コロナは減少続くもインフルは再増加？／RSウイルス感染症が増加中

新型コロナウイルスは年末から第10波となっていました。3月17日までの1週間で1医療機関あたり6.15人(前週6.53人)と減少が続き、大阪府では3.85人(同4.34人)でさらに少ない状況です。

新型コロナワクチンの全額公費による接種は、令和6年3月31日をもって終了です。4月1日以降は65歳以上のおよび60~64歳の重度障害者(心臓、腎臓、呼吸器、HIVによる免疫機能低下)には秋冬に自治体による定期接種が原則有料(最大で7000円程度)で行われる予定で、それ以外は全額自費による任意接種となり、さらに高額な費用負担が必要になります。

インフルエンザの3月17日までの1週間の患者数は、全国で定点医療機関あたり、報告数は17.26人となり、前週の定点当たり報告数16.14人よりも2週連続増加しました。新潟県や石川県、北海道などが多く、B型への置き変わりによるものと推測されています。大阪府では6.55人(前週7.94人)と引き続き減少ですが、大阪市西部9.33人、南河内8.71人、堺市8.31人等が多い状況です。

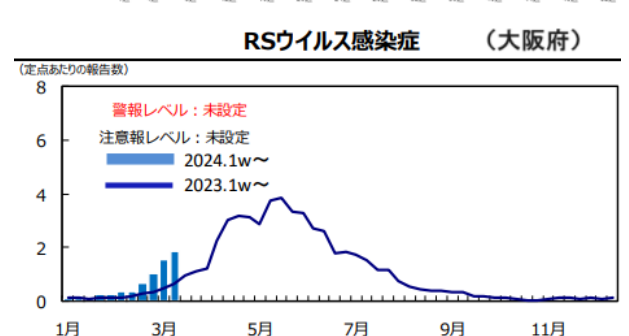
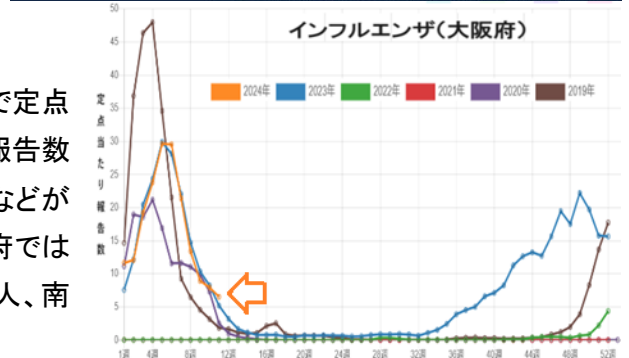
RSウイルス感染症が増加中～新生児と高齢者は特に注意～

RSウイルス(Respiratory syncytial virus)感染症がまた増加し始めており、大阪府では3月17日までの1週間で1.84人となっています。感染力の非常に強いウイルスで、子どもから大人まで上気道炎や下気道炎(=肺炎・気管支炎)を引き起こします。乳幼児における肺炎の約50%、細気管支炎の50~90%がRSウイルス感染症によるとされています。

生後1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%の乳幼児がRSウイルスに感染するとされています。多くは発熱、鼻水などの症状が数日続くなどの軽症で済みますが、初めて感染する乳幼児の約3割で、咳がひどくなる、「ヒューヒュー」という喘鳴を伴うなどの症状が出現し、その場合は、細気管支炎、肺炎へと進展することがあり注意が必要です。潜伏期間は2~8日、典型的には4~6日です。

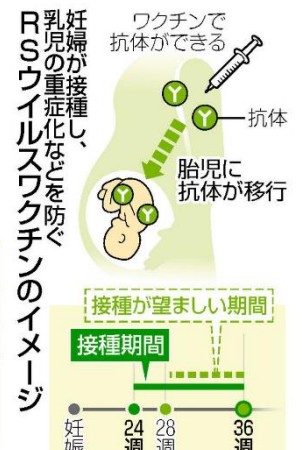
早産児や生後24ヶ月以下で心疾患や免疫不全等を有する場合は重症化するリスクが高いため、保険診療で抗RSウイルス抗体製剤のパリビズマブ(シナジス)を流行期間中月1回注射しています。それ以外の乳幼児でも多数の入院が発生しているためワクチン開発が最重要となっていました。本年1月18日妊婦への接種により新生児及び乳児のRSウイルスによる下気道疾患の予防する組換えRSウイルスワクチン(アブリスボ=図参照)が製造販売承認を取得し、6月販売に向けた準備が行われています。

一方成人では、RSウイルスに感染しても通常は重症化せずに上気道の感冒様症状のみで自然軽快しますが、高齢者で慢性呼吸器疾患や心疾患等の基礎疾患のある方では入院を要することも多く、肺炎による死亡率はインフルエンザに匹敵し、また介護施設での集団発生も多くみられます。ウイルスに対する有効な治療薬はありません。60歳以上の高齢者を対象とした組換えワクチン(アレックスビー)の接種が本年1月から開始されています。公費負担はなく費用は1回25,000円前後です。60歳以上で82.6%、基礎疾患がある場合は94.6%の重症化予防効果があり、臨床試験進行中ですが効果は1年以上持続するとのことです。



発症した割合を重下気道疾患によってRSウイルスによる

| ※臨床試験の結果 | | 生後90日まで | 生後180日まで |
|-----------------|--|---------|----------|
| ワクチン接種 | | 0.17% | 0.54% |
| 偽薬接種 | | 0.95% | 1.78% |
| ワクチンで重下気道疾患の発症が | | 82%減った | 69%減った |



東京新聞 WEB より